

将来都市像について

質問 鈴鹿市の将来都市像においてゆめや生きがいをもてる市民生活の実現のために本市の将来を担う子供たちが健やかに育ち、高齢者や障がいの方が安心して生活できる環境整備が必要であるが、市政が果たすべき目標と平成25年度の到達点と障がい者の方の就労支援はどうか。

答弁 子育て、子育てについては福祉と教育部局

で担当していた相談体制を、子どもに関する相談窓口を一元化し子供を持つ家庭を包括的かつ一体的に子ども家庭支援室にておこなう。障がい者の方の就労支援については障がい者就労の促進と「障がい」への理解向上を図り、「一般就業」「福祉的就労」障がい者自らによる「創業・起業」をテーマとした「就労マルシェ」を民間企業・ハローワーク等と連携し実施する。

その他の質問 ○行政経営の強化について

施政方針について

質問 防災減災について、公共インフラの予防保全はコスト削減にもなる。防災安全交付金など国の予算を活用して、橋や道路、公共施設の点検を早期に実施してはどうか。また、市民の健康を守るがん検診の受診率向上や、B型肝炎ワクチン助成、子ども医療費の拡充についての考えを尋ねる。

答弁 新年度予算においても、防災減災の為に、

積極的に予算配分した。橋や道路は防災安全交付金など国の予算を活用し、計画的に修繕する。また、小中学校の屋内運動場は、4校のつり天井改修と6校のガラス飛散防止を行う。市民会館のつり天井改修の設計も行う。がん対策については、乳がんと子宮がんを1日で受診できるセット検診を、平成25年度も行う。B型肝炎ワクチン助成は、情報収集に努め、中学生通院無料化は、今後の課題と考えている。

施政方針について

学力向上のための支援について

質問 「全国学力・学習状況調査」の結果をみると、鈴鹿市の子どもの学力は全国や県平均から低いものであり、子どもたちの学力を全国平均レベルまで押し上げる必要がある。このまま放置できない問題と考えるが、施政方針に示されている「特色ある学校づくりへの支援」とはどのようなことであり、どれだけの予算を何に使うのか。

答弁 平成25年度は「確かな学力を育む特色ある学校づくり事業費」として、特色ある取組の教育モデルを保護者・地域・教育・学校が一体となって創出し、学校教育の基盤づくりを強化するための予算を計上した。また、国の全国学力・学習状況調査が全ての学校で行われることになっており、その結果も把握分析され、さらなる教育施策の検証・改善に活かされるものと考えている。

施政方針について

質問 施政方針の中に「まちづくり」という言葉が何回も使われているが、まちづくりとはどういうものと考えているのか。また、アベノミクスを上手く利用した経済対策はあるのか。

答弁 まちづくりとは、市民が「まち」への関心や愛着を持ち、互いに尊重し支え合い、将来にわたり持続可能な豊かな住みよい「まち」をつくるこ

とであり、市民参加により進められるものであると考える。そこで、平成24年に鈴鹿市まちづくり基本条例を制定し、まちづくりの基本原則に市民参加と協働を掲げ、活力のある住みよいまちをつくっていくための基本原則やルールなどを定めている。アベノミクスを利用した経済対策としては、国の大型補正予算に関連して、事業の一部を平成24年度補正予算へ前倒しするなどの事業展開を考えている。